当館が認知した主な犯罪の事例（7月～9月）

以下は、当館が認知した特徴的な犯罪の手口です。

※ 特に断りがない場合、実際に邦人の方が被害に遭った（若しくは未遂）の事例です。

1. スリ、置き引きの被害

【事例1】

ベルギー・ブリュッセルからオランダ・ルールモント行き的高速バスに乗車。ブリュッセルで乗車時、パスポートとパソコンを入れたバックをバスの荷物積載スペース（「腹」の部分）に入れたところ、ルールモントで降車した際には預けた荷物がなくなっていた。

→ パスポートは常に手元に！

【事例2】

ベルギー・ブリュッセルからドイツ・ケルン行き的高速列車に乗車。パスポートやパソコンを入れたバックを頭上の棚のやや後方に置いていた。アーヘン駅に停車した際、自分の後ろで誰かが頭上の棚から何かを出し入れしている感覚があったが、特に気にしなかった。列車がアーヘン駅を出発して直ぐ、リンクしてあるパソコンが物理的に離れているとの警告が携帯に届き、慌てて頭上を確認したところ、バックがなくなっていた。

【事例3】

エッセンからミュンヘンに向かう ICE に乗車。パスポートの入った黒いバックを頭上の棚に置いていた。フランクフルト中央駅付近で一度バックからものを取り出した時には異常なかったが、同駅を過ぎたときにもう一度確認した際、バックがなくなっていた。

【事例4】

ドルトムントで開催されていたメッセ「インター タバコ展」に参加するために日本から出張。同メッセで商談中、財布、旅券、パソコン等が入ったバックを足下に置いていた。誰かにバックを触られた気がしたので気をつけていたつもりだったが、近くで大きな音（ガラスが割れるような音？）がしたのでそちらに一瞬気をとられた後、我に返った時には足下のバックがなくなっていた。

→ 入場券が必要であったり、関係者しか入れないようなメッセ会場等でもス

り、置き引き被害が多数発生しています。関係者しかいないように思える空間でも、決して油断しないでください。

2. 侵入盗（自宅以外）

【事例1】

一人旅でボンのビジネスホテルに滞在。朝、目が覚めたら、部屋の机の上に飲んだ覚えのないジュースが置いてあり驚いた。部屋を確認したところ、腕時計と貴重品を入れていたポシェットがなくなっていた。

→ 部屋はオートロック方式。侵入方法は不明ですが、就寝中に何者かに侵入された可能性が高い。比較的安全とされるドイツですが、こうした事案が発生することを念頭に、ホテルに付属しているドアの施錠設備は、内側から完全に使用する（チェーンや関貫錠、ドアストッパー）ほか、貴重品の保管はセキュリティボックスを利用してください。他方で、万一、侵入してきた犯人と遭遇してしまった際には、身の安全が一番ですので、絶対に抵抗しないでください。

3. 詐欺

【事例1】

携帯電話に「DHL」からSMSが届いた。ちょうどDHLを通じた商品配送を依頼中であったことからSMSに記載のURLから手続きを進め、カード情報を入力した。その数時間後、カードから151ユーロが決済されそうになった（高額が決済をブロックしていたため、決済されることはなかった）。取引情報を確認したところ、ブラジルにある企業が決済しようとしている模様だった。

犯罪に巻き込まれた場合は、まずご自身の安全を確保した上で、その場から速やかに110番通報または最寄りの警察署に被害の届出を行ってください。